資料１

第 15 回川部会 WG（本川モデル 8 回・家下川モデル 7 回）の進め方　H25. 11. 26

１. 第 15 回 WG について

（１）　本川モデルの開催状況

本川モデルは、今年度 3 回のＷＧを実施し、本日が今年度最後のＷＧとなります。これまでの活動の振り返りは、下記のとおりです。

【本川モデルのスケジュール】

第 9 回 WG : 現地調査（事業実施状況の確認・改善策の提案）　5 月 17 日（済）

↓

第 11 回 WG : 瀬・淵、支川合流点の現地調査と意見交換　7 月 12 日（済）

↓

第 14 回 WG : 籠川合流点上下流の瀬・淵の現地調査と意見交換　10 月 18 日（済）

↓

第 15 回 WG : 瀬・淵のあり方、方向性について意見交換　11 月 26 日（本日）

【第 9 回ＷＧ（本川モデル 5 回)】

- 安永川排水樋門周りのコンクリート護岸の覆土、安永川の魚道やトンネル部の河床の工夫、安永川合流部下流の瀬への配慮等の提案がありました。
- 渡合地区の災害復旧事業について、コンクリードブロックの護岸に対する問題提起があった。また、対岸の直線水路、ワンドを実験場として利用できる可能性を確認しました。

【第 11 回ＷＧ（本川モデル 6 回)】

- 瀬淵やワンド、砂州など、横断的な変化の形成には、低水路の川幅の広がりが重要であり、生物の生息環境にとって、水深が確保されている必要があることを確認しました。
- ＷＧメンバーの活動として、加茂川の段差改善の検討を行うことを確認し、大見川については、豊田市の検討状況を確認していくこととしました。

【第 14 回ＷＧ（本川モデル 7 回)】

- 多様な生息環境、物理環境を目指していくこと、その手段として、低水路幅が一つのポイントになることについて共有しました。
- 今後、動植物にとって、魚にとって、利用者（人）にとってなどの観点でブレークダウンして整理する必要がある。
- まだわかっていないこととして、越戸ダムから流下してくる土砂、越戸ダムの堆積土砂、低水路幅拡幅による河道の応答などがあることがわかった。
- 矢作川水系総合土砂管理検討委員会（以降、土砂管理委員会）に対しては、土砂供給の情報と越戸ダム下流の環境をどう捉えているかの情報提供をお願いする。
- 矢作川本川（平戸橋から下流）は治水上の重要性が高く、国交省と愛知県が連携した継続的な調査（横断測量、河床材料など）を実施できるとよい。

（２） 家下川モデルの開催状況

家下川モデルは、今年度２回のＷＧを実施し、本日が今年度最後のＷＧとなります。これまでの活動の振り返りは、下記のとおりです。

【家下川モデルのスケジュール】

第 10 回 WG：現地調査（課題と活動設置効果の確認）　6 月 13 日 （済）

↓

第 12 回 WG：家下川の課題解決策の検討について　8 月 26 日 （済）

↓

第 15 回 WG：家下川のこれまでの活動と今後について意見交換　11 月 26 日（本日）

【第 10 回ＷＧ（家下川モデル 5 回）】

・ 家下川ー承水溝ー長池の関係の理想形を考える必要がある。そのために、各ポイントの水位の状況を確認することとしました。
・ 水源確保について、用水系統の運用や家下川本川の導水の可能性（物理的な高さ等）を検討できるとよいことが確認されました。
・ 家下川合流点の段差解消について、矢板の一部の切り欠きにとどめている。昨年度WGで提案があったように、矢板をコンクリート等で固めず、モニタリングしながら、矢板裏の保護を検討していることの報告があり、確認しました。

【第 12 回ＷＧ（家下川モデル 6 回）】

・ 家下川ー承水溝ー長池の水位やゲート敷高等の高低差について確認し、水位を確保する方法と水深を確保する方法の２つをバランスよく行っていく必要があることを確認しました。
・ 水源の確保にあたっては、周辺農地の地下水調査や、湧き水の活用、下水道管渠・用水路の活用などの提案がありました。
・ 豊田土地改良区が実施する承水溝の浚渫（深さ）への提案を、行っていくことを確認しました。

（３） 本日の進め方

本日のＷＧは、本川モデル（約 70 分）と家下川モデル（約 50 分）の 2 部構成で行ないます。

１）開催日時　　：平成 25 年 11 月 26 日(火) 18：00～20：30

２）会議場所　　：豊田市職員会館２階　第１会議室

住 所：〒471-0025 愛知県豊田市西町２丁目 19

電 話： 0565-34-1933

３）参加対象者　：市民・関係団体・学識者・行政

本川モデルワーク　18：10～19：20（約 70 分）

第 14 回ＷＧに引き続き、今後、国土交通省から示される「矢作川水系における総合土砂管理計画策定に向けた提言書骨子（案）」（仮称）に対して、市民や矢作川流域圏懇談会として、瀬・淵など川のあり方、理想像、方向性等についてどう考えるかについて意見交換を行います。

家下川モデルワーク　19：20～20：10（約 50 分）

これまでの活動を振り返り、家下川モデルの課題解決に向けて、わかったこと、今後検討する必要があることなどについて、意見交換を行います。

次回以降のＷＧについて　20：10～20：25（約 15 分）

次回以降の WG の活動日時・内容について調整します。

－ 第１６回WG：地先の課題モデル３回（予定）
  候補日：12月20日 18時～
  内容：２回の現地調査を踏まえた意見交換
  ※ 本日の WG を踏まえて、モデルの設定も含めて検討ください。

－ 第４回川の地域部会、候補日：１月予定

２.意見交換のすすめ方

本川モデルワークと家下川モデルワークの意見交換のすすめ方は、以下に示すとおりです。

（１） 本川モデルのすすめ方

資料４， ５を参考にして、これまでの瀬・淵の検討を踏まえて、矢作川河川環境の方向性について検討します。

１）流域圏としての目標設定について
- 流域圏としての目標をどう設定するか。
  - 例１：現状の河川環境の維持
  - 例２：かつてのすばらしい矢作川の河川環境の回復
- 最低限確保したい河川環境とは何か。

２）今後示される提言書について
- 具体的にどのような内容を知りたいか。
- 今後想定される対策手法（土砂バイパス、置土等）に対して、流域圏（川部会）として、意見を出すか。
- 今後、WG としてどの場所を中心に検討していくか。

（２） 家下川モデルのすすめ方

資料４を確認しながら、以下の 2 つの視点でこれまでの活動を振り返ります。

視点１：家下川モデルの課題解決に向けてわかったこと
視点２：家下川モデルで今後検討する必要があること